

熊本地震発生から6カ月がたつのを前に、熊本大と東日本大震災を経験した東北大が、健康・安全・減災を考える市民公開講座「今、ともに学び考える！」を8日、熊本市中央区大江本町の熊本大薬学部で開いた。両大学の博士課程教育プログラムが、これまでに蓄積した経験や知識を地域で生かしてもらおうと、初めて連携して開催した。約百人が参加し、研究者の話に耳を傾けた。

減災テーマに市民講座

ニブムを解説。佐々木宏之助教が同大病院の医療チームによる南阿蘇村での支援活動を報告した。今村文彦所長は「地震の経験を教訓に変えて次世代に伝承することが大切」と語った。

熊本大からは稲葉継陽・永青文庫研究センター長が熊本城の震災の歴史を紹介。藤見俊夫・減災型社会システム実践研究教育センター准教授が、人間が災害にうまく対処できない理由を行動・意思決定のパターンから説明した。

(山口純)



震災を経験した熊本大と東北大が企画した市民公開講座「今、ともに学び考える！」の会場。熊本市中央区